

株式のリスクプレミアムは存在するのか

年金運用では、資産配分の決定が重要だと言われている。株式や債券にどれだけ投資するのかを決めることが、将来の運用成果の大部分を左右するからだ。資産配分を決める際の重要なインプットの 하나가、株式リスクプレミアムである。債券に対して株式の期待リターンが高いならば、株式への配分が正当化される。

ここで、本当に株式のリスクプレミアムは存在するのか、という疑問に直面する。過去においても、債券のリターンが株式を上回る期間が何年もあった。リスクをとっても報われないなら、株式に投資する理由などない。

長期データを利用した海外における最近の研究によれば、多くの国の株式市場で、短期的にも長期的にも、株式のリスクプレミアムが存在することが確認された。株式投資への意義が与えられたという意味で、年金運用としては好ましい結果であろう。

しかし同時に、債券のリターンの方が高い可能性が、長い目でみたとしても、4割程度もあり得ることも明らかになった。そうすると、単に株式投資を行ってれば良いということでもないようだ。このような環境を意識した運用体制の構築が重要だろう。

《目次》

- ・ (年金制度) : 老後のための自助努力—誰がどのくらいできるのか
- ・ (証券市場) : マイナス金利で見直される個人向け国債
- ・ (欧州経済) : ハード・ブレグジット懸念で進むポンド安